

歴史まちづくりの取組促進に資するプラットフォームの構築 に関する研究

Research on platform development for contribution to the conservation and utilization of historical resources

(研究期間 令和2年度～令和3年度)

社会資本マネジメント研究センター Research Center for Infrastructure Management 緑化生態研究室 Landscape and Ecology Division	室 長 Head 研 究 官 Researcher	大石 智弘 OHISHI Tomohiro 岩本 一将 IWAMOTO Kazumasa
---	------------------------------------	---

This project has explored how to appear the effects through the practices with historical resources for future works on the historical cities. Through the two-phase survey including the reading evaluation reports and the doing interviews, five cities were extracted as a good practice. Finally, they were described as a good case sheet that has some information: background, effects, features, and valuable inputs for other cities.

【研究目的及び経緯】

平成20年の「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(以下、歴史まちづくり法)」の成立後、令和3年4月1日現在、全国86都市が同法の規定に基づく歴史的風致維持向上計画の認定を受けている。本研究では、歴史的風致維持向上計画の認定を受けた都市(以下、認定都市)に対して、計画に基づく中長期的な取組の成果とその達成プロセスを把握し、より効果的な計画の運用へとフィードバックするために、各取組のノウハウの共有・ネットワーク化を可能とするプラットフォームの作成に取り組んでいる。

本年度は、歴史的風致維持向上計画に基づく取組成果が顕著である認定都市を個別に調査し、事業実施上の工夫と留意点に関する情報等を収集し、今後の取組促進に有用だと考えられる情報を把握・整理した。

【研究内容】

令和2年度は、全国の歴史的風致維持向上計画の認定都市(令和2年7月時点で認定後1年以上経過している78都市)を調査対象に、取組の有効性や成果が確認できる事例を抽出するとともに、抽出した事例の中から、顕著な取組成果の発現が認められる事例を選定し、取組の経緯や内容に関する資料調査および行政担当者へのヒアリング調査を実施した。

調査の第一段階として、各認定都市の進行管理・評価シートを確認し、取組の内容を「取組種別」として7項目(計画/独自制度/意識醸成/保存活用/景観形成/産業振興/移住促進)、成果発現に結びつく事業実施上の工夫・留意点を「工夫・留意点」として5項目(事業設定/実施体制・担い手/資金調達/進め方・手順/手法・手段)に類型化し(表-1)、その上で特徴的な取組

表-1 調査対象都市を選定する上での2つの観点

取組種別	
計画	歴史的風致維持向上計画と景観計画等の他の計画を効果的に連動させて運用している事例 歴史的風致維持向上計画を端緒として、エリアや対象をより絞った計画を策定し、事業を進めている事例
独自制度	歴史まちづくりを効果的に進めるための自治体独自の制度を創設している事例
意識醸成	歴史資源に対する住民の愛着や誇り、歴史まちづくりに関する機運の醸成を図っている事例
保存活用	歴史的建造物などを効果的に保存・活用している事例
景観形成	地域固有の歴史的風致と調和した良好な市街地景観を維持・形成している事例
産業振興	地域の地場産業などの継承・活性化を図っている事例
移住促進	歴史的市街地への移住を促進するための取組を推進している事例
工夫・留意点	
事業設定	当該地域の歴史的風致を向上させる上でインパクトの大きい事業の計画への位置づけ
実施体制 担い手	事業を円滑かつ効果的に進めるための体制づくり、担い手の確保
資金調達	事業に必要な資金(初期費用・維持管理費用)の確保(寄付金募集、民間活力の活用など)
進め方 手順	関係者間の合意形成を図りながら事業を円滑に進めるための手順
手法 手段	事業の実効性および事業効果を高める手法やスキームの構築・採用(条例の制定や制度づくり等)

を実施しており、且つ取組成果が認められる26都市を抽出した。抽出した26都市を表-1の観点で整理した一覧表が表-2である。調査の第二段階としては、26都市のうち、特に取組や成果が特徴的である8都市に対してヒアリング調査を実施し、その調査結果を踏まえて、最終的に5都市(水戸市/太宰府市/松江市/小田原市/大洲市)の調査結果を整理した。

【研究成果】

各都市の調査結果は、表-3に示した5つの項目で情報を整理し、その内容を事例シート形式でわかりやすくまとめた(図-1)。また、事例シートを作成した5都市の調査結果を踏まえて、歴史的風致維持向上計画に基づく取組の成果発現の5つのポイント(庁内関連部局との効果的連携/他の関連計画との連動/市民の自

表-2 「取組種別」と「工夫・留意点」にみる
調査対象候補都市の整理一覧

	都市名	取組	取組種別							工夫・留意点					選定事例
			計画	独自制度	意識醸成	保存活用	景観形成	産業振興	移住促進	事業設定	資金調達	進め方・手順	手法・手段		
1	金沢市	金澤町家の保存・活用		●		●					●	●	●		
2	秋市	歴史まちづくりの意識醸成と住民参画		●	●								●	●	
3	水戸市	弘道館・水戸城跡周辺の景観整備	●		●						●			●	
4	弘前市	伝統産業の継承・活性化							●						
5	大宰府市	歴史文化基本構想・景観計画、歴史的風致維持向上計画の運動と市民参画	●	●	●		●				●	●	●	●	
6	三好市	NPO法人の活動から波及した自治体主体の歴史的建造物の保存活動				●									
7	白河市	歴史的風致維持向上地区計画による建築物の用途の緩和と景観誘導					●							●	
8	松江市	市独自の歴史的建造物の登録制度創設		●	●	●					●	●	●	●	
9	高岡市	歴史まちづくり事業の住民活動等への広がり				●						●			
10	小田原市	歴史的建造物活用エリアコーディネート	●			●					●	●		●	
11	川越市	多様な助成メニューによる重層的な町並みの保全					●							●	
12	宇治市	伝統文化・伝統産業(宇治茶)の継承・活性化							●					●	
13	大洲市	古民家等の再生・活用のスキームの構築とその運用				●					●	●	●	●	
14	佐賀市	市による歴史的建造物の取得・改修と民間活用				●							●	●	
15	尾道市	官民連携による移住促進に寄与する空き家再生の取組								●					
16	鶴岡市	伝統産業のブランド化・販路拡大							●				●	●	
17	日南市	民間からの資金調達による空き家の活用					●							●	
18	郡山市	サブリース方式による空き家の活用												●	
19	名古屋市	市の独自制度による文化財未満の歴史的建造物の保全		●								●			
20	竹田市	明確な都市のビジョンの策定による実効性の高い事業の推進	●												
21	国見町	情報発信拠点施設の整備を中心とした歴史まちづくりの広がり				●					●				
22	奈良市	まちなかの拠点形成とその活用による賑わいの創出					●							●	
23	伊賀市	空き家対策と分散型ホテル等の取組による古民家の活用					●					●		●	
24	岡崎市	建築物の高さ制限による岡崎城主へのビスタラインの保全						●						●	
25	村上市	地域の各種団体と連携した歴史まちづくりの取組				●						●			
26	甲州市	果樹栽培の文化的景観の保全に向けた取組み							●						
合計			4	5	5	11	5	4	3	3	7	6	6	16	8

※：「選定事例」に該当する事例は、ヒアリング調査を実施した8都市を示している。
※：灰色のハッチがかかっている事例については、最終的となりまとめ成果を作成した5都市を示している。

発的取組の誘発・展開/効果的な事業の組み合わせと集中/取組の発展的継続)を以下に整理した。

1)「市内関連部局との効果的連携」について、歴史的風致維持向上計画は、計画策定の段階から自治体の文化財部局とまちづくり部局が連携することが目指されている。この連携の実例として、松江市では、文化財保護部門を都市整備部の歴史まちづくり部門に統合し、新たに「歴史まちづくり部」を創設したことで、まちづくり行政と文化財保護行政を一体的に推進していくための組織を構築した。

2)「他の関連計画との連動」について、歴史的風致維持向上計画の中でも「重点区域における良好な景観の形成に関する施策との連携」をはかることが求められている。具体例として、太宰府市では、歴史文化基本構想を「根拠」、景観計画を「指針」、歴史的風致維持向上計画を「まちづくり事業」と位置付け、それぞれの計画内容を連動させた上で事業を実施している。

3)「市民の自発的取組の誘発・展開」について、歴史的風致の維持・向上のためには市民の自発的取組を誘引することも重要となる。太宰府市では、市民団体

表-3 作成した事例シートの構成

事例シートの構成	
1. 取組の概要・ポイント	当該事例の取組の概要と、この取組を優れた事例として取り上げた理由の説明を取りまとめた。
2. 取組経緯	本事例シートで対象とする取組の経緯を年表形式で取りまとめたとともに、取組が実施される上でその背景となる施策や取組の内容を取りまとめた。
3. 取組の内容と特徴(工夫・留意点)	本事例シートで紹介する主たる取組の詳細な内容、取組実施上の工夫・留意点、取組の成果と課題について取りまとめた。
4. 取組の効果と歴史的風致維持向上計画の役割	本事例シートで紹介した取組を通じて得られた効果や成果について、特に歴史的風致維持向上計画が策定されたこととの関連に着目して取りまとめた。
5. 歴史まちづくりへの示唆(まとめ)	本事例シートで紹介した取組が成功した要因、および成功による効果が波及した要因を客観的に評価して取りまとめた。

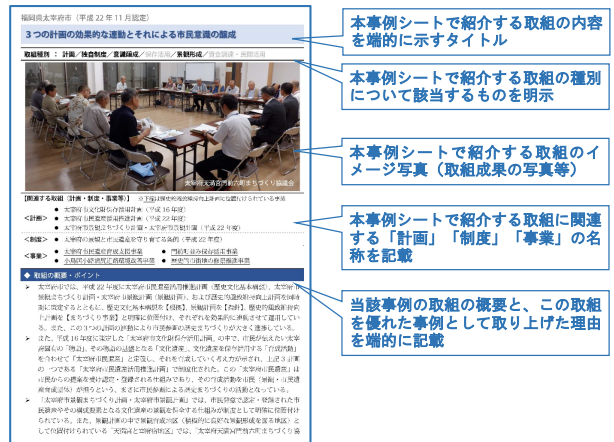


図-1 事例シート(取組の冒頭ページを例示)

による育成活動も対象として「太宰府市民遺産」として認定・登録することで、市民の歴史まちづくりに対する意識を高め、自発的取組を誘発している。

4)「効果的な事業の組み合わせと集中」について、歴史資源の復元などの整備事業を集中して実施するためには事業費の確保が重要であり、歴史的風致維持向上計画に位置づけられている事業は国の支援を受けることができる。例として水戸市では、水戸城大手門などの復元整備にあたり、当該施設を歴史的風致形成建造物に指定したことで、街なみ環境整備事業を活用するなど、周辺一帯の整備事業を実現することができた。

5)「取組の発展的継続」について、歴史的風致維持向上計画に基づく取組の成果を発現させる上では、取組の過程で新たな課題を発見し、その解決にも取組みながら事業を継続させることが有効である。小田原市では、歴史的風致維持向上計画策定後に顕在化した課題を解決するため、新たにエリアを詳細に絞ったアクションプランを策定・実行するなど、効果発現に向けた発展的継続が行われている。

【成果の活用】

本調査成果は、緑化生態研究室が管理運営するウェブサイトをjを通じて公表する予定である。